

# 家型テントの立て方

テント生活では、大人にとっても子どもにとっても楽しいものです。  
まずは、自分たちでテント設営、撤収することから始めてみましょう。

## 【ねらい】

- 1) テント生活の楽しさを味わう
- 2) 活動をとおして、協調性、主体性を養う。
- 3) テント設営、撤収の仕方の野外技術を学ぶ。

## 【テントの種類・貸出用】

- 家型テント 16張
- ドーム型テント 5張 [参考]

## 【設営・撤収時間】

- 家型テント 設営：約1時間30分 撤収：約1時間
- ドーム型テント 設営：約1時間 撤収：約30分 [参考]

※ 上記は目安です。参加者の年齢を考慮して時間を設定してください。

## 【場所】

- 1から8張 → テント広場
- 9から16張 → スポーツ広場

## 【定員(グループ構成)】

- 1) 当センターの定員は5名(家型・ドーム型共通)です。
- 2) テント宿泊者の年齢、性別、体格を考慮して人数を調整してください。
- 3) また、異年齢集団にして縦割りグループにするのもよいでしょう。

## 【指導について】

- 1) 設営・撤収方法については、指導依頼があればご協力いたします。センタ職員にご相談ください。
- 2) 指導が不要でも貸出説明はさせていただきますので、説明を受けてから設営・撤収を行ってください。



## 【貸出備品】

## ■ ウレタンマット

グラウンドシートの上に敷きます。  
1テントにつき2枚お貸しします。



## ■ テント用毛布

ウレタンマットの上に敷きます。  
1テントにつき2枚お貸しします。



## ■ 寝袋(有料)

シーツを中に入れてお使いください。



## ■ シーツ(有料)

おひとり1枚お貸しします。  
クリーニング代をいただきます。

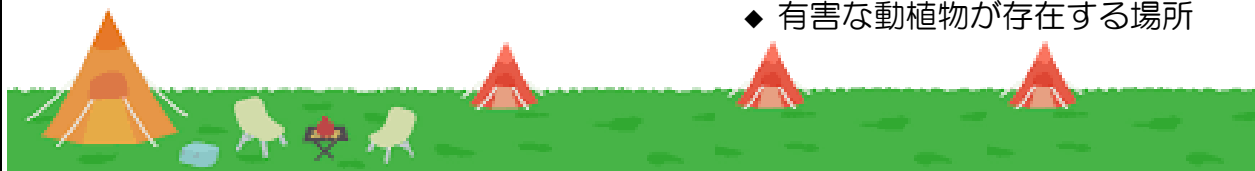


※ 寝袋をご持参いただく場合はシーツは不要ですが、荒天により宿泊室にお泊りの場合にはシーツが必要です。

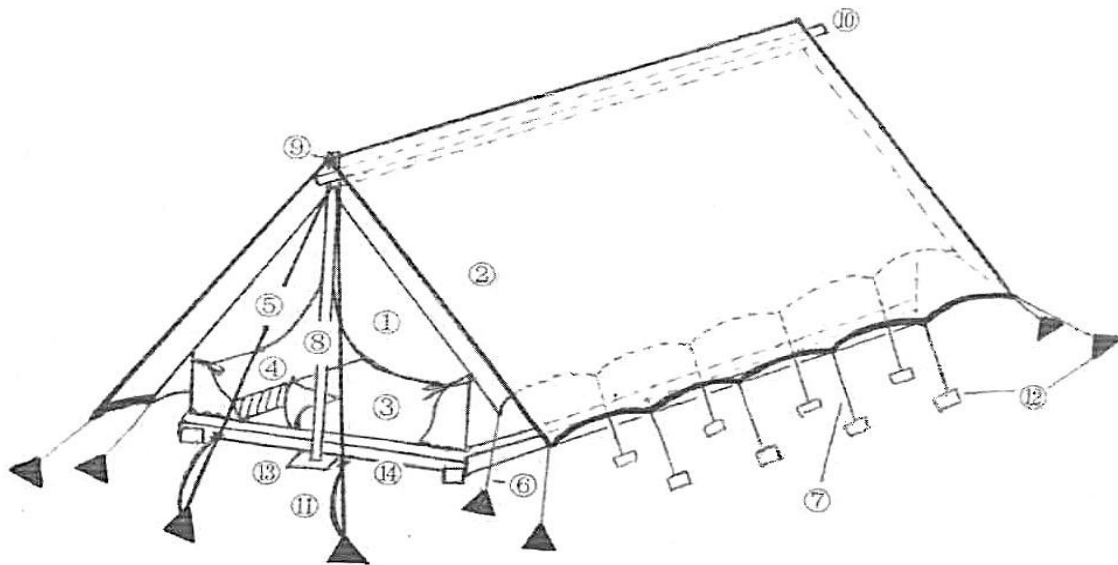
## 【コラム】

センターでは整地された場所にテントを設営しますが、整地されていない場所でテントを設営する場合にはどんな条件を選べばよいでしょうか。

- ◆ 移住性に富んでいる場所
- ◆ 湿気がなく排水の良いところ
- ◆ 広く平坦な場所
- ◆ 通風の良い場所
- ◆ 木陰で適度に木漏れ日がさすところ
- ◆ 危険な場所
- ◆ 崖の淵や崖の下
- ◆ 河原の水際や中洲
- ◆ 大木の下
- ◆ 山の山頂や風当たりの強い場所
- ◆ 有害な動植物が存在する場所



## 【家型テントの各部の名称】



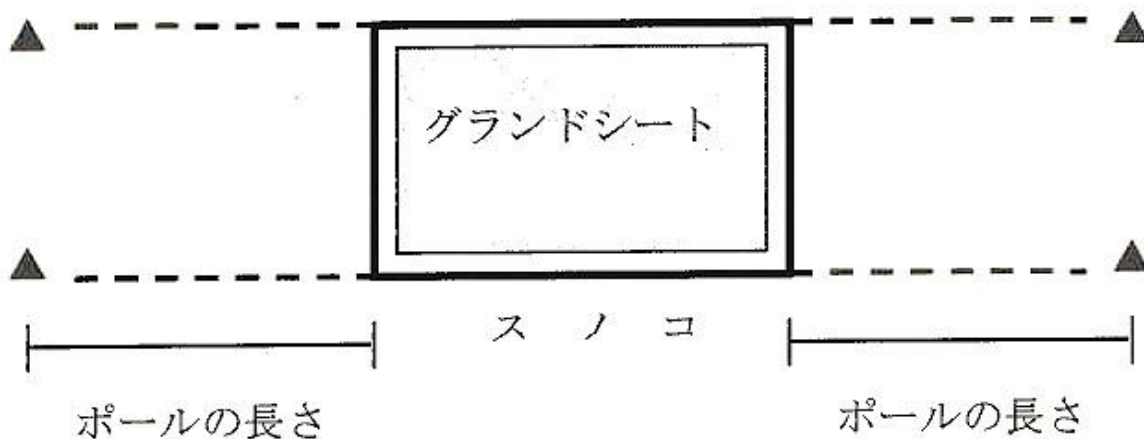
- ① テント本体： 本体そのもの
- ② フライシート： テントの外側に張って屋根を二重にすることで雨や歓談の影響を和らげる。 本体とフライシートが接触していると雨漏りの原因になるので、10cm程度離す。
- ③ グランドシート： テント内に敷く敷物で防水・防湿のため防水加工してある。
- ④ ソドクロス： テントの裾の部分についている布。蒸しや隙間風の侵入を防ぎ、湿気を吸収するためにグランドシートを下に敷く。
- ⑤ 親綱(メインポール)： テントを張るための一番大切なロープ。 このロープとポールによってテントを自立させる。
- ⑥ 角綱(コーナーポール) 4つの角を張るロープ。
- ⑦ 横綱(サイドポール) 4つの角以外を張るロープ
- ⑧ ポール： テントを支える柱。
- ⑨ ジョイント： ポールに取り付け、リッジを通す道具。
- ⑩ リッジ： フライシートを支える棟。テント本体とフライシートが触れないようにする。
- ⑪ 自在(ラナ)： ロープの長さを調整する道具。必要に応じて伸縮させることができる。
- ⑫ ペグ： 地面に打ち込んでロープを固定する道具、場所によって大小2種類を使い分ける。
- ⑬ 木片： ポールの下に敷き、ポールが地面に食い込むのを防ぐ。
- ⑭ すのこ： テントの下に敷くことで雨水の侵入を防ぐ。

## 【家型テント設営方法】

本体	……	1	大ペグ	……	12	ポール	……	2
フライシート	……	1	小ペグ	……	20	ジョイント	……	2
グランドシート	……	1	ハンマー	……	2	リッジ	……	1
親綱	……	2	木片	……	2			

- ① テント貸出備品を確認します。
- ② 設営する位置を決め、整地します。そこにすのこを3枚運び並べます。
- ③ すのこの上にグランドシートを表側が下になるように敷きます。
- ④ すのこの四隅に小ペグを打ち込みます。ペグはすのこの高さまで打ち込んでおきましょう。
- ⑤ すのこの延長線上にポールを置き、印をつけます(図1参照)。そこに親綱用の大ペグを打ちます。ペグと地面の角度は綱と同じ方向に130度くらいで打ち込み、張綱との角度は90度になるのが一般的です。

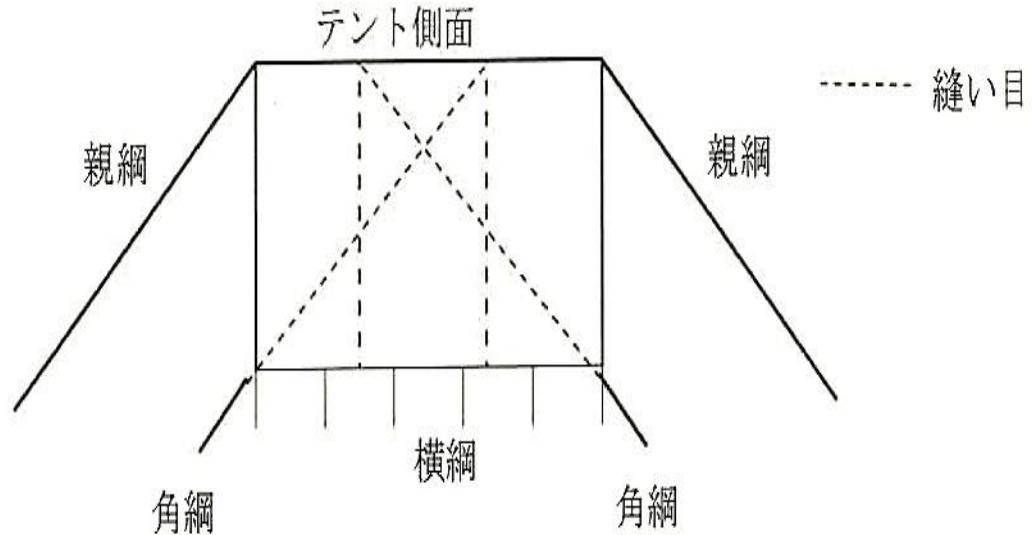
【図1】



- ⑥ 出入り口の向きと出入り口が閉まっていること確認しながら、グランドシートの上に本体を広げます。ポールを通して親綱をかけ、その上にジョイントを固定します。
- ⑦ ジョイントにリッジを通し、フライシートをかけます。
- ⑧ ポールの下に木片を置き、テントを起こします。親綱を⑤で打ち込んだ大ペグにかけポールが垂直に立つよう調整します。調整は親綱を対角同士で引いて行います。
- ⑨ 本体の四隅のひもを④で打ち込んでおいたペグにかけます。

- ⑩ 本体の角綱がぬいめの対角線上にくる位(図2参照)に大ペグを打ち込み角綱をかけます。

【図2】



- ⑪ ⑨で打ち込んだ大ペグを結ぶように線を引き、その線上に横綱がまっすぐ張れるよう小ペグを打ち込みます。打ち込んだペグに横綱をかけていきます。
- ⑫ テントにシワがないように角綱、横綱を調整していきます。
- ⑬ フライシートも本体同様に角綱、横綱の順に張り、本体とフライシートが触れないように角綱、横綱を調整します。
- ⑭ ソドクロスをグランドシートとすのこの間に入れ、グランドシートと本体を結びます。
- ⑮ ペグ袋にハンマーを入れ、本体の本体と一緒にテントの中に入れておきます。
- ⑯ 夜間の歩行安全とテント倒し防止のため、親綱に白い布で目印を付けます。



### 【家型テント撤収方法】

- ① テント撤収する前にテント内に忘れ物がないか、またテントが乾いているかを確認します。泥汚れなどはたわしで落としておきます。
- ② テントの撤収は設営と逆の順序で行います。出入口を閉めてから始めます。
- ③ 外した綱は縮めて結び、ペグは泥を洗い落として乾かします。ペグを抜いた後の穴は埋めておいてください。
- ④ フライシートは、まず裾側から中央に向かって折り、次に反対側から中央に向かって1/3の大きさにします。次に2つ折りにして背側から淵に向けて中の空気を抜きながら丸めていきます。
- ⑤ テント本体は出入口とその対面部分を中心に折り込み、長方形にしてからフライシートと同様にたたんでください。
- ⑥ グランドシートは縦に2回折って、横に1回折ります。次に背側から淵に向けて中の空気を抜くように丸めていきます。
- ⑦ 再度備品を確認してから袋に入れてください。
- ⑧ すのこを元の場所に戻し、ゴミ拾いなどサイトの整備を行ってください。

### 【図3】

